



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)
ハマスのレトリックに騙されるな
イスラエルが地上戦に出る理由

2023/10/16

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。ハマスの大規模テロ攻撃によって、イスラエルはテロの撲滅を目指し、いよいよ地上戦がカウントダウンの状況になっています。いつ始まるのかは軍事機密上のことがあるので、はっきりしたことは分かりませんが、地上戦が始まると、双方に多大な犠牲が出る。これは間違いないことですね。出来るだけこの被害が大きくならないようにと祈るばかりですが、犠牲があることを覚悟した上で、イスラエルは地上戦に踏み込もうとしている。その理由について、今日はお話ししたいと思います。

今日、日曜日の朝にこれを撮っていますが、11日にTBSが重信メイ（しげのぶ めい）という人物をテレビ出演させました。それに対して、イスラエルのコーヘン大使が非常に立腹し、旧 Twitter の X（エックス）で、「テロリズムを擁護する人物を出演させるのはいかがなものか」と批判しています。

重信メイ氏のお母さんは重信房子（しげのぶ ふさこ）で、日本赤軍の元最高幹部。若い方はご存じないでしょうが、日本赤軍は世界中でテロをやりまくった団体です。ハイジャックをやり、誘拐をやり、大使館を襲撃し、全世界でテロをやりまくったテロ集団の最高幹部が重信房子なんですね。

その日本赤軍のテロの1発目がイスラエルであったんです。ロッド空港乱射事件。ロッド空港は今、ベングリオン空港に名前を変えていますね。1972年5月、日本赤軍の3人のテロリストがロッド空港になだれ込んで銃を乱射し、100名以上の人々を死傷させたのです。イスラエル人は8名。ほとんどはプエルトリコから来た巡礼者でした。銃乱射のテロ事件が1972年5月（英語で May）。重信房子の娘のメイという名前はテロの成功を記念して付けたのですが、ご本人は大変気に入っているそうです。

重信房子は国際指名手配され、世界中の警察が追ってたのですが、世界を点々としながら、最終的に大阪にいたんですね。大阪の西成（にしなり）に潜伏していることが分かり、ようやく逮捕されて懲役20年。昨年でしょうか、出所したんです。花束を持って迎えたのがメイ氏だったのですが、彼女はTBSに出て何と言ったのか。

今回のハマスの大規模テロ攻撃に対して「例えば、学校で毎日のように虐められている子が初めてやり返したが、それに対して焦点が当たったような、そんな感じなんです。なぜかパレスチナの問題になると、抵抗ではなくテロになっちゃう。それが、まず問題だと思います。」

「今回のテロで一番の問題は、ハマスがやったのは無差別殺戮ではなく、抵抗なのにテロと言っていることだ。テロではない。抵抗なんだ。」

本当に悪いのは、毎日毎日虐めているイスラエルだ。本当の悪の根源・問題はイスラエルなんだ。イスラエル国が出来たからパレスチナ人が難民になり、圧政で苦しんでいるので、やむにやまれずこんな事をやったんだ」という論法です。

問題は彼女をテレビ出演させたということです。実は日本のマスコミは、大体この論調です。新聞各社の社説を見ても、大体この論調ですね。マスコミ関係だけでなく、日本で中東の専門家と言われている人たちが、おしなべてそのストーリーで語り出すんですね。「イスラエルが出来たので、パレスチナ人が難民となって国を持ってないで苦しんでいる。やむにやまれずテロをやった。だからイスラエルに責任がある」という論調なんですね。

これね、ずっと聞き続けていたら、嘘でも 100 回聞いていたら、本当だと思うようになるので、まやかしのデタラメな説明を信じ込んでいる日本国民が多いんです。なので、そのような論調の YouTube 番組が、今も雨後の筍のように発生しているんですね。しかしそれは、歴史的経緯をずっと見て来た者として申し上げますけどね、間違いです。フェイクもいいところですよ。

なぜパレスチナ人は国を持ってないんでしょう。イスラエルが邪魔したからですか。イスラエルの国が出来たから、難民になって国を失ったんですか。パレスチナの国があった所にイスラエルが入り込んで、土地を横取りしたので難民になったんですか。もしそう考えている方がいたら、それは大きな間違いです。そこで、中東和平の問題について、ざっくり説明させていただきます。

今から約 100 年ちょい前まで、パレスチナはオスマン帝国の一部でした。オスマン帝国は 1917 年、第一次世界大戦で敗北して解体され、戦勝国のイギリスがここを委任統治します。その間に、ユダヤ人たちとパレスチナ人たちの衝突が頻発したんですね。

そこでイギリスは、1937 年にピール提案という分割案を双方に示しました。ユダヤ人地区にはユダヤ人の国を造り、アラブ人地区にはアラブ人の国を造る。そうして、分割して別々の国で生活する。別々の国を造る。このピール提案をイスラエルは受け入れましたが、アラブ側は拒否してテロに訴えたんです。

翌年の 1938 年、イギリスはウッドヘッド提案を出しました。ユダヤ人側はそれを受け入れましたが、アラブ側はそれを拒否してテロをやったんです。

そして 3 回目。1946 年、イギリスはモリソン・グレイディ提案を出しました。ユダヤ側は受け入れましたが、アラブ側は拒否して、またテロをしたんです。

1947 年 11 月、国連の分割決議案が圧倒的多数で可決されました。この国連総会の承認によって「ユダヤ人国家にあてがわれている土地はここ。

アラブ人国家にあてがわれている土地はここ」ということで、2つの国が生まれるようにそれぞれに領土を分け与え、この国連承認に基いて、ユダヤ人側は1948年5月14日に独立宣言したんです。

ユダヤ側が国連承認の分割決議を受け入れたように、パレスチナ側もこれを受け入れていたら、今頃パレスチナに2つの国があったんですよ。ユダヤ側は受け入れてイスラエルを建国したんですが、アラブ側はこれを蹴ったんですね。

1948年5月14日にイスラエルが独立宣言をした翌日の5月15日、アラブの連合軍が北から東から南から、パレスチナ全土を戦場にして攻め込んで来ました。これが第一次中東戦争です。

ちょっと考えていただきたいんですけどね、自分たちが住んでいるところ、すなわちパレスチナ全土が戦場になれば、そこに住んでいる人たちはどうしますか。逃げますよね。難民化しますよ。

ロシアがウクライナに入った結果、ウクライナはどうなりましたか。国内難民500万人。国外難民800万人。4400万人のウクライナ人口のうち1300万人が難民になってるんです。自分が住んでいるところが戦場になり、そこで生きていくことができないので、やむなく難民になったんですね。

第一次中東戦争で、アラブ連合軍がパレスチナ全土に戦争のために入って来た。そのために生まれたのがパレスチナ難民です。イスラエルの国が出来たから国を奪われたんじゃない。イスラエルの独立を認めようとしないアラブの国々が、戦争のためにパレスチナ全土に入って来たので、戦禍から逃げるためにパレスチナ難民が生まれたんです。その数は60万人とされています。

ところで、第一次中東戦争（イスラエル独立戦争）で生まれた難民は、パレスチナ難民だけではありません。もっと大きな難民がもう1つあったんです。ユダヤ難民ですよ。

当時、中東にはアラブの国が21か国ありましたが、このアラブの国々が出来上がる前から、先住民としてユダヤ人が住んでいたんです。ユダヤ人はAD70年にローマに滅ぼされた結果、中東にも散らばって、千数百年前からアラブ地方に住んでるんですね。

しかし、イスラエル国が出来た時、ユダヤ民族に対する反発で、ユダヤ人はみな、アラブ各国の中から追放されて行ったんです。そうやって生まれたユダヤ難民は80万人。このユダヤ難民に、ほとんどスポットが当たらないのはなぜでしょう。彼らが千数百キロを経てイスラエルに入って来た時、イスラエル国民として丁寧に受け入れられ、普通の市民として生活できたからです。

ところが、パレスチナ難民のほうは、普通の国民になれなかったんですね。第一次中東戦争の結果で、パレスチナ国家になるはずだったヨルダン川西岸はヨルダンに乗っ取られてしまい、ガザ地区はエジプトに乗っ取られてしまった。この2つのエリアにパレスチナ人の国を造ってあげたら良かったのに、ヨルダンもエジプトもそうしませんでした。この難民問題を放置し、彼らを惨めな状態に置くことによって“イスラエルの悪”ということを実際立たせ、アピールできると考えたからです。つまり、政治的道具として利用したんですね。

パレスチナ人のことを本当に思っているなら、自分たちが占領した所は元々パレスチナ国家の予定地なんだから、そこに国を造ってあげたらいいじゃないですか。しなかったんです。イスラエルを非難するための政治的道具として悪用するために、彼らを難民状態に留め置いたんですね。

ですから、イスラエル建国がアラブ人を難民化させたのではありません。「イスラエルの独立は承服し難い。これを武力でも潰してやる」というアラブの戦争の結果、生まれたのがパレスチナ難民なのです。この状態が続いて、難民化している人たちの中から過激派が出て来ました。ヨルダン川西岸とガザ地区から、テロがどんどん起こるんです。これをやめさせるために始まったのが第二次中東戦争（スエズ動乱）で、これについては別の機会にお話ししたいと思います。

第三次中東戦争は1967年6月5日に始まって、6月10日に終わりました。5日・6日・7日・8日・9日・10日の6日間で決着が付いたので“6日（むいか）戦争”と言いますが、その結果イスラエルは4つの占領地を持つことになりました。ゴラン高原・ヨルダン川西岸・ガザ地区・シナイ半島です。

ゴラン高原はシリアから、ヨルダン川西岸はヨルダンとの戦争の結果ヨルダンから、ガザ地区とシナイ半島はエジプトとの戦争の結果、エジプト軍を追っ払って占領したんですね。

それが、6月10日に戦争が終わった直後の6月19日、イスラエルは閣議決定をし、第三者を介してアラブ側に打診しました。「占領した所を返しましょう。但し、返す代わりにイスラエルの生存権を認めてください。イスラエルと和平条約を結んで、イスラエルを認めてくれるのなら、占領した所を6月4日のラインまで全部返します。」

アラブ側はこれを断ったんですね。断って何をしたか。①イスラエルと交渉しない。②イスラエルと和平しない。③イスラエルの存在を認めない。これを“3つのノー（No）”と言います。

アラブ連盟はこの“3つのノー”を掲げて、イスラエルを存在させないことを誓うんですね。その結果、パレスチナ人は国を持たない状態が続きますよ。テロに訴え続けていくパレスチナやアラブは不毛の戦争をやりますが、イスラエル

は和平を結ぶなら土地を返すと言ったのです。

しかし、段々パレスチナとイスラエルの力の差が際立って、どんなにイスラエルと戦っても勝てないことがようやく分かって来て、事態が変わっていきました。エジプトは1972年に「分かりました。イスラエルと戦争するのはもうやめます」ということで、シナイ半島をドーンと返して来ました。1994年、ヨルダンもイスラエルと交渉して、土地（領土）問題が解決したんです。シリアはイスラエルの存在を認めないのでそのままです。

パレスチナは認めないと言っていたのですが、1993年にオスロ合意が結ばれたんですね。「PLO（パレスチナ代表）が武装闘争路線をやめるなら、イスラエルはPLOを交渉相手として認め、交渉（話し合い）によって、ヨルダンから占領している土地をパレスチナに譲渡する。そこにパレスチナ国家を造る。」これがオスロ合意です。その方向に向かって進み出したんですね。

1993年にオスロ合意があり、1994年5月にガザ・エリコ先行自治協定が結ばれました。イスラエルとパレスチナは長い間戦ってますよ。だから、オスロ合意があったからといって、いちにのさん！で全部返して、貰うもん貰ったからまた戦争！となると、これはもう堪ったもんじゃない。なので、お試し期間です。

まずガザとエリコの地域を返して、本当にテロがなくなり平和共存ができたかをお試し期間で見届けて、少しずつ譲渡する地域を増やしていく。それでパレスチナ人は国を持ち、イスラエルは国内の安全保障を守りながら、安全運転で脅威を受けずに共存共栄できる。ということで、1994年5月にガザとエリコで先行自治が始まりました。

何が起こったでしょう。テロが頻発したんですよ。1994年5月から2000年までに24件の自動車爆弾テロ。自動車爆弾テロはマーケットやコンサート会場など、大勢の人が集まる所に車を置いて爆発させるんです。たくさんユダヤ人一般市民が死にました。それから自爆攻撃。これはほとんどバスでやります。自分の体に爆弾を巻いた自爆テロリストが、乗客としてバスに乗って爆発させるんです。閉鎖されているので、破壊力が余計に凄まじいんですね。これが24件。

この時のイスラエル首相はバラクですよ。バラクは頻発するテロを抑えようとしながら、同時に共存共栄路線を行こうとするもんだから、イスラエル国民にすれば「テロ全然収まってないのに、なんで和平結ぶん?!」ということで選挙に負けて、超タカ派政権ができたんです。

今までの経緯を考えると、はっきり言えることが1つあります。和平機運が盛り上がって来ると、和平が進み出すと、テロが激化する。なぜですか。和平を望まない勢力がパレスチナ側にあるからですよ。

今回も「サウジアラビアとイスラエルの和平条約が進んで行っているのに、ハマスがそれをした」と言われていますよね。

和平が近づくと、それを阻止するためにテロが激化する。

和平をほったらかしにすると、イスラエルは暴君国家と言われる。

和平を進めようとするともテロがある。

和平を実現し、かつテロもなくするにはどうしたらいいですか。

テロ組織そのものを解体する以外、ないじゃないですか。

プライムニュースという番組で司会者が言いました。

「テロ組織解体のために、一般人も被害を受けるんじゃないですか。イスラエルは一（いち）やられたら、十・二十やり返すんじゃないですか。」

呼ばれていたコーヘン大使は言いました。

「じゃあ、他にどんな解決方法があるか教えてください。」

司会者は何も言いませんでしたね。答えは無いじゃないですか。

確信犯でテロをやることで「イスラエルはこんな酷いことをしてるんだ」と、イスラエルを追い詰めるのがテロリストの論理なんです。

それに乗るということは、テロリストの協力者になるということですよ。

あるいは、テロに騙されるということです。

私たちは事の本質を見究めながら、なぜイスラエルが地上戦に入るのか、その背景を理解したいと思います。

そして、できるだけ双方に大きな被害がないように…、双方とはイスラエルとガザ地区の一般住民です。ハマスのことではありません。ハマスは解体されるべきです。私はそう信じています。

パレスチナ問題についてはあまりにも間違った理解が、繰り返し繰り返し、現在進行形で今なお垂れ流されているので、折に触れて発言していきたいと思います。

よろしければ参考になさってください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

.. 00.. 0.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00.. 00..